

第1学年 算数科学習指導案

1 日時・場所 令和6年9月27日(金)

2 学年・組 1年3組 (26名)

3 単元名 「たしざん」

4 単元について

(1) 教材観

本単元で扱う加法計算は学習指導要領において以下のように位置付けられている。

第1学年 A数と計算

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

本単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、その方法を理解し、計算することができる力を育成する。本単元の学習を通して、既習の計算に帰着し、数の見方を工夫することによって、未習の計算方法を考え、解決していくという力を伸ばしていくのである。

(2) 児童観

本学級の児童は、算数の学習が好きな児童が多く、普段から算数の授業の積極的に取り組んでいる。学習に集中して参加している児童も多いが、授業の最後まで座って取り組むことが難しい児童もみられ、声をかけたり、隣で一緒に取り組みながら授業に励んでいる。また、授業内では友達と意見を交流することによって理解を深めている。授業内ではブロックを使用し、実際にブロックを操作することにより「10といくつ」という数の見方を意識させ、それぞれの課題に配慮しながら学習を進めていきたい。

(3) 指導観

本単元では、既に学習している「10といくつ」という数の見方に着目しながら、くり上がりのある加法計算の仕方を考える。普段の算数の授業でも、計算ブロックを使って操作し、学習を進めているので、本単元でも「10のまとまり」、補数をブロックで操作したり、図を書きながら説明をすることによって問題解決の過程を共有し、意識させながら指導したい。また、ブロックの操作と図を関連づけることで、ブロックを操作しなくても数の動きをイメージして計算することができるように指導する。児童の理解を深めるため、繰り返し説明する活動を取り入れ、1位数どうしの繰り上がりのある加数計算に慣れるようにしたい。

5 単元の目標

(知識及び技能) 1位数どうしのくり上がりのある加法計算が「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解するとともに、計算を確実にする。

(思考力、判断力、表現力等) 10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。

(学びに向かう力、人間性等) 1位数どうしの加法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

6 単元の評価規準

【知識・技能】 1位数どうしのくり上がりのある加法計算が「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。

【思考力・判断力・表現力】 10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方

を、操作や図を用いて考え、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】 1 位数どうしの加法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、その良さや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

7 単元指導計画（全 10 時間・本時 3/10 時）

時	学習内容	評価規準			
		知	思	態	主な評価規準（評価方法）
1・2	● 1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加法計算）を理解する。 ・「あわせてなんこ」を求める場面であることから、加法であることを考え、立式する。既習の加法計算を振り返る。 ・ $9 + 4$ の計算の仕方を説明する。 ・ 加数分解による計算方法をまとめる。 ・ 加数分解の方法で $9 + 3$ の計算をする。	○	○	○	既習の加法計算や「10といくつ」という数の見方を基にした $9 + 4$ などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。（知・技） $9 + 4$ などの計算の仕方を、数の見方（10といくつ）を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。（思・判・表） 既習の加法計算の学習や数の見方を基に、1 位数どうしの加法計算の仕方を考えようとしている。（態度）
3 (本時) 4	● 前時までの学習を踏まえ、1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。	○	○		加数分解による計算が確実にできる。（知・技） 被加数が $9 \sim 6$ の場合でも、10のまとまりをつくって計算すれば良いことを考え、説明している。（思・判・表）

5 6	●1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。 ・場面から加法であると判断して、立式する。 ・$3 + 9$ の計算の仕方を考える。 ・被加数を分解しても、10 のまとまりをつくることをまとめる。 ・$6 + 7$ の計算の仕方を考える。 ・自分が計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。 ・計算練習、文章題を解決する。	○	○		1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10 のまとまりをつくれればよいことを理解し、その計算ができる。（知・技） 被加数、加数の大きさに関係なく、10 のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。（思・判・表）
7～9	●加法の計算能力を伸ばす。 ・計算カードを用いたいろいろな活動を通して、繰り上がりのある1 位数どうしの加法計算の練習をする。 ・答えが11 になるカードを集めたり、同じ答えのカードを並べたりして、数の並び方の規則性を見出し、数の関数的な見方にふれる。	○	○		1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。（知・技） 計算カードの並び方について、縦に見ると被加数が1 増えると加数は1 減る、という関数的な見方に気づき、数の関係を説明している。（思・判・表）
10	●学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ、価値づける。	○	○	○	基本的な問題を解決することができる。（知・技） 単元の学習を活用して問題の解決の仕方を考え、説明している。（思・判・表） 単元の学習で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じている。（態度）

8 本時の目標 1 位数どうしのくり上がりのある加法計算（ $8 + 3$ ）で、加数を分解して計算する方法を理解し、その計算を確実にする。

9 本時の評価規準

（知識・技能）加数分解による計算が確実にできる。

（思考力・判断力・表現力）被加数が $9 \sim 6$ の場合でも、10 のまとまりをつくり、計算すればよいことに気づき、考え、説明している。

（主体的に学習に取り組む態度）既習の加法計算の学習や数の見方を基に、1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。

10 本時の展開

時	学習活動・予想される児童の反応	●評価規準 ◆留意点・支援
導入	・ 前回の授業の復習、確認 （前回までに行っている、$9 + 4$ の式をどのように計算したのかをここで明確にする） ・ 本時の問題を捉える めあて：$8 + 3$ のけいさんのしかたをかんがえよう	●既に学んでいる $9 + 4$ での計算方法を基に考えることができる。
展開	・ 前回の授業で、$9 + 4$ をした時にどのようなことに着目して、式を立てたのか考える。 →「10 のまとまりをつくった!」「10 のまとまりを作るために、1 移動させた!」 ・ $8 + 3$ をどのようにして計算していくのかを近くの友達と考える。 ・ 計算ブロックを出して、黒板で見せながら実際に動かして考える。 ○○○○○○○○○ ○○○←バラの 3 の方から 10 を作るために	●既に学んでいる $9 + 4$ での計算方法を基に考えることができる。 ●加数分解による計算が確実にできる。 ◆少し難しいと感じている児童には、横につき、一緒にブロック操作をし、ゆっくり考えながら理解に導く。

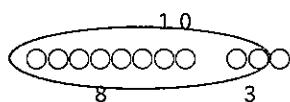
	移動させる ・ 前回の $9 + 4$ と同様、 10 といくつになるように、うしろのかずをわけてたす ということに気づかせる。 10 のまとまりをつくる計算の仕方をブロックを使いながら、一番最初にまず～、次に～、などのように段階に分けて理解へと進める。 ① 8 と 2 と 10 ② 3 と 2 と 1 にわる ・ 練習問題 ③ 8 に 2 と 10 ① $8 + 4$ ④ 10 と 12 先ほどと同様、10 のまとまりをつくるためには 4 から移動させて考える、ということを使って考える。 $8 + 4 = 12$ ② $7 + 4$ ← 超難題として、児童に考えさせる。 数が変わって 9、8 が 7 になっても考え方は同じであるということに気づかせる。	
まとめ	本時の振り返り ・ 学習のまとめとして、計算の仕方は数が変わっても同じであるということを確認する。	

◆早くできた児童には繰り上がりのある加数計算に慣れるように、 $7 + \sim$ 、さらに $6 + \sim$ などの問題を出す。

11 板書計画

めあて $8 + 3$ のけいさんの
しかたをかんがえよう。

まとめ 10といくつになるように、
うしろのかずをわけてたす。



- もんだい ① $8 + 4$
② $8 + 5$
③ $7 + 4$

$9 + 4$ とおなじように10と
いくつに
なるようにする。

$$\begin{array}{r} 8 + 3 = 11 \\ \swarrow \quad \searrow \\ 2 \quad 10 \quad 1 \end{array}$$